

## 【スポーツイン南風】

平成12年南風小学校の開校後、当時の家宇治校長(現糸島市教育長)から「10月に行う運動会に地域の方も参加されませんか」という提案がありました。

「子どもたちを地域の方にも見ていただきたい」という小学校の思い、「住民の融合」を課題とする校区運営委員会の思いがまとまり、平成12年10月、小学校と地域合同による第1回目の「スポーツイン南風」がはじまりました。初年度はあいにくの天気でお昼に中止となりましたが、翌年5月無事開催することが出来ました。



入退場門の製作、取り付け用の穴掘り、パイプ埋め込みは当時の体育委員が総出で行いました。また、校区の競技は5つありましたが、そのうちの一つは小学生と体育委員が話し合ったものを行ってきました。

途中生徒数が950人をこえ(現在は約650人)、小学校の校庭が住民のテントで埋め尽くされるという事態も生じ、校区からも合同開催はやめるべきではないかという意見も多く出されるようになりましたが、小学校からぜひ継続してほしいという話があり、今に至っています。



## 【南風校区文化祭】

南風校区文化祭も「スポーツイン南風」の趣旨と同様に平成12年11月25日、26日の2日間小学校、地域合同で開催されました。

初めての文化祭を開催するにあたり、文化委員は5月頃から企画を練り、数知れぬほどの会合をもって準備を行ってきました。一番大変だったのは、校区ができたばかりで作品を展示する機材がなかったことです。前原公民館、前原南公民館、雷山公民館、長糸公民館、加布里公民館から機材を借りるため、体育委員をはじめ他部門の役員がトラックで何度も往復しました。

1日目の午前中は小学校の体育館で1年生から6年生までの発表会、午後からは老人会(当時)指導により子どもたちが竹とんぼや竹馬づくり、スポーツカイトの実演を行いました。2日目には南風公民館2階の大研修室で地域の方々の踊りやダンス、カラオケ等を行いました。

展示部門は小学校の南風ホールをメイン会場とし、廊下部分にもいろんな展示物を飾りました。地域からの出品作品は250点以上にのぼりました。大変質の高い作品が多く、他校区から来られた方々が驚かれています。ほかに餅つきや農産物販売、バザーも行いました。

長年2日間開催をしていましたが、小学校の先生の休日出校の問題、設営のため金曜日から日曜日まで携わる役員、地域住民の負担増を考慮し、平成27年度からは土曜日みの開催となりました。



# みんなのみなかぜ

～住みたい、住み続けたい街～

第7号<保存版>  
平成30年10月1日  
南風校区運営委員会  
共創プラン推進委員会



## ➤ 南風校区のなりたちについて

来年は校区が発足して20年目となります。校区発足当初は約1,700世帯5,500名(平成14年4月)でしたが、現在では約3,000世帯9,000名という糸島市でも大規模な校区となりました。南風校区のなりたちをご存じない方も増えてきています。この機会に南風校区の歴史を数回にわたって振り返ってみたいと思います。語り部は初代南風公民館館長をつとめられた江藤道男さんです。

## 【南風台の街づくりと行政区発足】

南風台地域は都市基盤整備公団(旧:住宅都市整備公団)が前原町(当時)と昭和52年に協議し、福岡都市圏西部の住宅団地として開発を行うことになり、平成元年9月に建設大臣の認可を受けスタートしました。「ハートタウン南風台」をキーワードに、健康で、自然にやさしく、楽しさがあふれ、やすらぎ、語らう街づくりをコンセプトに進めることになりました。事業の名称は「前原都市計画事業前原土地区画整理事業」で開発の施工者は都市基盤整備公団でした。

平成8年3月30日に街びらきが行われ、4丁目、5丁目への入居が始まりました。団地の開発が順次進むにつれ、他の街区にも続々と入居が始まりました。

平成8年11月に大浦行政区に南風台8丁目が合流し、南風台8丁目行政区が発足しましたが、他の南風台行政区の発足については美咲が丘の場合とは違った形をとりました。南風台は美咲が丘に比べて規模が大きく、一つの行政区が全体をカバーし住民増加に伴い分離発足するというやり方はできず、それぞれの丁目ごとの話し合いで順次発足していきました。

平成9年5月 南風台5丁目行政区が発足、次いで南風台4丁目行政区が発足し前原校区に加入しました。ところが、行政区は前原校区にもかかわらず、小学生は前原南小、中学生は前原中に通学することになっており、校区行事の対応について子どもたちと大人たちの間でいろいろ困ったことが起きました。

平成12年4月に南風台1・2丁目行政区と南風台3丁目行政区が発足し、南風校区発足に間に合いました。少し遅れて平成12年7月に南風台6・7行政区が発足しました。



平成9年12月 南風校区全景

## 【美咲が丘の街づくりと行政区発足】

昭和63年荻浦土地区画整理組合の設立に向け準備委員会が発足、前原市などと話し合いを進める中、JR九州が新駅設置を条件に参加申し込みがあり準備委員会、前原市、JR九州などで事業認可に向けて作業を進めてきました。

平成3年から約3年をかけて文化財遺跡調査を行い16基の遺跡が見つかりました。そのうちの立石1号墳と砂魚塚1号墳は現在「はな咲公園」内に移設保存されています。

平成4年1月 福岡県から事業認可を受け荻浦土地区画整理組合が発足し事業着手。造成工事開始後1年たったころ、予想もしなかった大量の岩盤の出現などで事業計画を変更せざるをえなくなったり、いろいろ困難な事態を乗り越え、この大事業が事故一つなく工事が進み、平成7年10月28日に「美咲が丘の街びらき式典」と「美咲が丘新駅開業式典」が行われました。美咲が丘のキャッチフレーズは「新駅から夢咲く街」でこの街のシンボルマークはコスモスをモチーフとしたもので、これから発展してゆく街をイメージしています。コスモスはギリシャ語で「調和」「秩序」を意味する言葉に由来しているそうです。（土地区画整理記念誌より）

平成11年3月28日に美咲が丘駅前に設置された竣工記念碑の除幕式が行われ、引き続き竣工式が開催され新しい街の誕生を祝いました。同時に披露された竣工記念モニュメントには「風そよぐわがふるさとにはここにあり 夢こそかなえ美咲が丘に」と記されています。

美咲が丘2丁目の第一期工事区域に入居が始まったのは平成7年12月末で、翌年1月から本格的に始まりました。平成8年度からは美咲が丘の住民は荻浦行政区の12組として活動を始めました。荻浦行政区主催の運動会が前原西中グラウンドで行われ、美咲が丘住民も参加させていただいたのは楽しい思い出です。

そのころ、小学生は前原小、中学生は前原西中に通学しました。小学生の通学路は交通量の多い市街地で低学年の子どもでは40分ほどかかる道のりでしたが、みんな頑張って通学しました。おかげで(?)脚力が向上したのか、前原校区の子ども駅伝大会ではよい成績を上げていました。

平成9年4月から市の指導もあり美咲が丘2丁目行政区が発足、前原校区の構成メンバーとなりました。当時美咲が丘は2丁目から入居が始まり、1,3,4丁目はまだ入居者は少なかったため、市から1,3,4丁目も当面2丁目行政区の中に入れて運用できないかと打診があり、1,3,4丁目の住民を含めた総会を開きみなさんの賛同を得て5月より2丁目行政区に入ることになりました。

その後、1丁目の入居者が増えてきたため平成11年4月に分離し、美咲が丘1丁目行政区として発足しました。さらに3丁目および4丁目の入居者が徐々に増加してきたので、南風校区発足に合わせ美咲が丘の2つの行政区の構成を変更し、2丁目と3丁目を「美咲が丘東行政区」、1丁目と4丁目を「美咲が丘西行政区」と名称変更し、現在に至っています。



美咲が丘の街びらき式典



## ➤ 南風校区三大行事の始まり

南風校区発足当時の三大行事といえば「スポーツイン南風」「南風校区文化祭」そして「校区ウォークラリー」でした。その後、ウォークラリーから「南風ふれあい夏祭り」に変わったという歴史があります。

### 【南風ふれあい夏祭り】

始まりは平成14年春。2年前に南風小学校が開校し、前原小・前原南小・雷山小に通う子どもたちが一緒に学べるようになりました。ところが、中学生になると再び前原中・前原西中に分かれて通うこととなり、それは現在でも同じ状況です。中学校になり離れ離れになった友達と出会う場をなにか作れないかと考え、生まれたのが「南風ふれあい夏祭り」でした。

当時は荻浦、美咲が丘が行政区単位の夏祭り、多久行政区は盆踊りを開催していました。住民の負担が増えるため、校区全体での夏祭りを行うことに異論があったこ



とも事実です。しかしながら当時の地域づくりの課題である「新・旧住民の融合」「すべての住民の相互交流、連帯感の育成」の解決策の一つとして、みんなでやろうじゃないかという機運が盛り上がり、開催することにしました。校区運営委員会、公民館、小学校から15名のメンバーを集めチームをつくり、毎週のように打ち合わせを行い、平成14年8月に第一回目を開催する運びとなりました。



引き神輿と飾り神輿

ステージや座席は荻浦から、盆踊りのやぐらや太鼓(数年間は総踊りもやっていた)は多久から拝借、電気工事も地域の方、引き神輿1台飾り神輿4台は校区の大工さんが仕事の傍ら作ってくれました。模擬店については出店希望者も非常に少なかったため、行政区にもお願いし15店の出店が出来ました。中には似顔絵を書くコーナーもありました。第1回目の夏祭り終了後、大量のゴミが出るという事態が発生し問題となった



似顔絵コーナー

ため、以後ゴミを減らすための努力を続けています。

小学校の先生たちも非常に協力的で、ポスターやパンフレットの作成、模擬店の出店、ステージでもパフォーマンスを発揮していただき、それは現在でも続いています。そして何より、校区の住民の方々が当日朝早くからの準備、設営、そして翌日の片付けまで参加・協力していただきました。はじめは手探りで小規模なお祭りでしたが、形や運営を変えながら、今も住民参加型の祭りとして続いています。

